記者発表資料

平成２３年１月２６日
国土交通省青森河川国道事務所

十三湖と岩木川の生態環境を考える

～平成２２年度 河川生態学術研究会岩木川研究グループ 発表会～

近年、河川が本来持っている自然環境の役割を見直し、河川管理のあり方を再検討しようとする気運が高まってきております。そこで河川管理者（国土交通省）は、これまで不足している生態学の知見を補うことと、幅広い研究成果を取り入れる事により、自然環境にも配慮した多様性のある河川管理の実現へ向けた河川行政を展開する事としております。

全国的には平成７年度から多摩川と千曲川で研究が始まったのを皮切りに、当研究会は全国６河川目で、東北地方初として平成１８年度に学識経験者を中心とした「河川生態学術研究会岩木川研究グループ」が発足し、調査研究（Ｈ１８～Ｈ２２の５年間の予定）が開始されました。

岩木川での主な研究内容は、

・十三湖の汽水環境、物質循環、食物網の調査研究。

・広大なヨシ原の形成・維持・再生の生態的機能の調査研究。

・流域の地形・地質、河川流域環境の歴史的変化の調査研究。　となっています。

今回の発表会は、研究開始から５年が経過し一つの区切りの年にあたります。これまでの５年間で行った研究の成果について、下記により発表会を実施することになりましたのでお知らせします。

日 時：平成２３年１月２９日(土) １３：３０～１７：４０
場 所：弘前大学　創立５０周年記念会館　みちのくホール
弘前市文京町１　０１７２－３９－３４９０

入場無料

【発表会プログラム】

■平成２２年度岩木川研究グループ研究概要報告

■セッション１：十三湖の汽水環境、物質循環と食物網の把握
「川の流れに支配される十三湖の生態系」ほか４題

■セッション２：ヨシ原の形成・維持機構、生態的機能の把握
「岩木川河川敷におけるヨシ原の人為攪乱によるヨシ群落への影響」ほか２題

■セッション３：流域の地形・地質、河川構造、河川流域環境の歴史的変化の把握
「縄文時代中期以降の十三湖の地形環境変遷」ほか１題

発表記者会：青森県県政記者会、建設関係専門紙、津軽新報社

【問い合わせ先】
国土交通省　東北地方整備局　青森河川国道事務所
副　所　長　荒木　勝彦　（内線２０４）
調査第一課長　福田　修　（内線３５１）
TEL：017-734-4521(代表)　TEL：017-734-4560（調査第一課直通）

河川生態学術研究会
第５回岩木川研究グループ 研究発表会

母なる川「岩木川」と神秘の湖「十三湖」

～ 自 然 の し く み ～



入場無料
参加者募集

日　時：平成 23 年 1 月 29 日(土)　13:30～17:40

場　所：弘前大学　創立 50 周年記念会館　みちのくホール

〒036-8560　青森県弘前市文京町１番地（アクセスは、裏面参照）
TEL 0172-39-3490、FAX 0172-36-2132

※本研究発表会は、継続教育（CPD）制度のプログラムとして認定されています（CPD プログラム番号：201012150003、単位数：4.0 単位）

開催にあたって

平成１８年度より、十三湖やヨシ原などの特徴的な河川環境を有する岩木川下流域を対象に、生態学と河川工学の知見を取り入れた調査・研究を実施し、多様性のある河川環境管理の実現へ向けて「河川生態学術研究会岩木川研究グループ」を発足し、研究を実施してきました。今年は研究開始から５年が経過し一つの区切りの年にあたります。そのため、これまで５年間の調査・研究を通して得られた成果を皆様方に発表させていただくことといたしました。

近年、国土保全の観点から生物群集を含めた河川の科学的知見を明らかにし、河川の価値を理解・評価し、持続的河川管理のあり方がますます強く求められています。また、国土保全の立場から、自然再生の問題が課題となってきており、河川生態学術研究の役割はますます重要になってきております。

本研究グループの調査研究成果及び今後の研究方向性を中心にした内容について、皆様方にぜひご拝聴賜りたく、ここにご案内申し上げます。

河川生態学術研究会岩木川研究グループ委員長　八戸工業大学教授　**佐々木幹夫**

■主　　催：河川生態学術研究会　岩木川研究グループ、国土交通省　東北地方整備局
■協　　賛：一般社団法人　青森県建設コンサルタント協会
■お問い合わせ先：国土交通省　東北地方整備局　青森河川国道事務所　調査第一課、TEL017-734-4560

河川生態学術研究会 岩木川研究グループ発表会

母なる川「岩木川」と神秘の湖「十三湖」～ 自 然 の しくみ ～

発表タイトル

1．平成 22 年度岩木川研究グループ研究概要報告

佐々木 幹夫*（八戸工業大学大学院工学研究科）

【セッション１】十三湖の汽水環境、物質循環と食物網の把握

2．十三湖における塩水挙動とそれに関連した水質環境特性

佐々木 幹夫、田中 仁・梅田 信*（東北大学大学院工学研究科）

3．十三湖におけるシルト・粘土の補足に着目した土砂動態の実態把握

藤田 光一・天野 邦彦・望月 貴文*（国土交通省 国土技術政策総合研究所）

4．集水域からみた岩木川の水質形成過程

占部 城太郎*・鈴木 孝男（東北大学大学院生命科学研究科）、岩田 智也（山梨大学工学部）

5．川の流れに支配される十三湖の生態系

東 信行*（弘前大学農学生命科学部）、笠井 亮秀（京都大学大学院農学研究科）、

【セッション２】ヨシ原の形成・維持機構、生態的機能の把握

6．岩木川河川敷のヨシ原における人為攪乱によるヨシ群落への影響

竹内 健悟*（青森市立浪岡北小学校・河川環境保全モニター）、齋藤 宗勝（盛岡大学栄養科学部）、齋藤 信夫（青森市立南中学校）、寺林 暁良（農林中金総合研究所・北海道大学大学院）

7．分子マーカーを利用した岩木川下流域ヨシ群落の遺伝的構造の解析

杉山 修一*（弘前大学農学生命科学部）

8．オオセッカから見た岩木川の葦原

東 信行、羽根田 雄斗*、鎌田 帆南（弘前大学大学院農学生命科学研究科）

【セッション３】流域の地形・地質、河川構造、河川流域環境の歴史的変化の把握

9．縄文時代中期以降の十三湖の地形環境変遷

小岩 直人*（弘前大学教育学部）

１０．岩木川下流域・十三湖の自然と人の歴史的な関係の特性

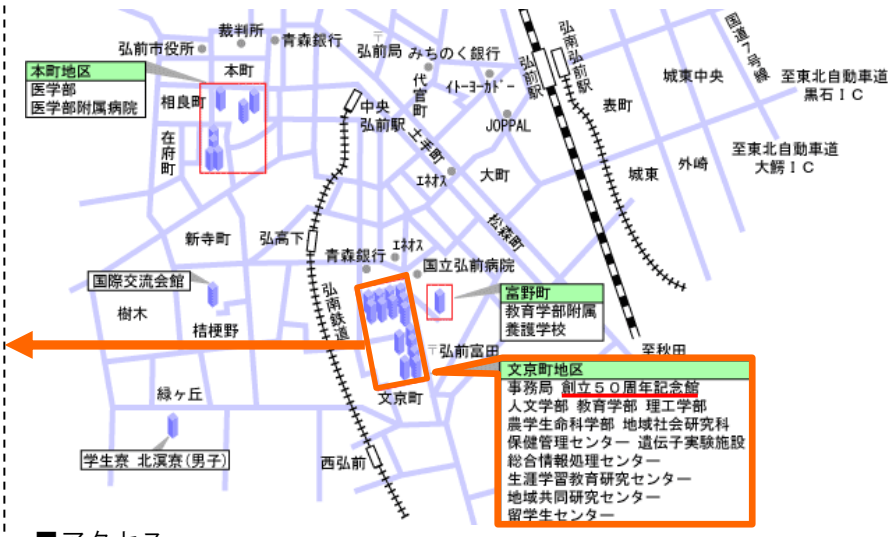
清野 聡子*（九州大学大学院工学研究院環境都市部門）、東 信行、竹内 健悟

*は発表予定者



会場アクセス図

広域図



■アクセス

・JR 弘前駅から徒歩 25 分　・弘南鉄道弘高下駅から徒歩 10 分

弘前大学（文京町地区）構内に駐車場はございますが、駐車台数には限りがございます。
お越しの際は、極力公共交通機関をご利用ください